

重要

第 28 回長崎県柔道場連盟少年柔道大会申し合わせ事項

本大会は、子供達の大会であり、“安全指導”並びに、“教育的立場”から事故のないよう配慮する為、次の事項を申し合わせる。

- 小学生は、両膝を最初から同時に畳に着いて背負投等を施した場合、審判員合議の上「反則負け」とする。また、片膝を最初から畳に着いて背負投等を施した場合も、通常の審判規定では罰則はないが、本大会では「指導」を与える。(中学生は通常のルール)
- 上位大会の選手選考並びに N マークの選考を兼ねており、該当する階級の選手は体重計を準備しているので、事前に体重測定をして構わない。また、申込日より日数が経過して体重の増減があり、階級に相違のある選手は試合前に大会本部に必ず報告すること。
- 大会当日体重測定は行わないが、審判員が階級に相違があると思われた場合、体重を測定実施し試合出場の判断をする。
- 大会前 1 ヶ月以内に脳震盪を受傷した選手は、専門医の診察を受け出場許可を得ること。
- 試合中、頭部を強打し試合続行不可能な場合は勿論の事、審判員が危険と判断した時も、審判員合議の上、試合者を棄権させる。また、その後一連の試合の出場も認めない。
- 背中“ゼッケン”のない選手や、柔道着の袖口を折り曲げて着用している選手の出場は認めない。但し、肩口での折り曲げは認める。
- 監督・コーチ、一般の声援でも、審判員を侮辱するような暴言があった場合は、審判員合議の上退場とする。また、声援の中でも「教育的配慮に欠ける」応援も厳重に注意する。
- 監督・コーチの服装も、審判員に準じ大会に相応しい服装・格好にてお願いしたい。
(Gパン、ジャージ等の軽装はお控え下さい)
- 大会当日は、道場ごとにリボンを配布し、リボンを着けていない一般の応援の方々は、試合会場への入場はできない。